



扇小だより

考える子 思いやりのある子 強い子

令和8年度 第23号

52年目

「信」から創る

9月24日 児童数671名
人間市立扇小学校

学習規範を高めよりよく学ぶ

学校長 村越 新

本校では、**学習規律**（集団で学習を進める上での最低限のルール）とは別に、学習規範を学校経営に位置付けています。

学習規範とは、学習者が主体的に学ぶために必要な態度や行動のルール、のことです。指導者と学習者が共有し、継続的に身につけていくことを指しています。

本校では、学校経営案に「**学習規範五原則**」として、以下の行動を明示しています。

- 1 休み時間に授業準備を終える
- 2 プリントに書く名前は最高の字
- 3 分からなかったら友達に聞く
- 4 人の話は黙って最後まで聴く
- 5 皆が黙ってから友達に向けて発言する

それぞれの原則には深い意味があります。どれも、生涯「学んでいく人」として、とっても大事な行動です。一人での学習のみならず、他者との協働が中心となる、将来の学習においても重要な習慣になると考えています。自走する子にとって、大事なエンジンなのです。

上記5つ以外にも、素晴らしい規範が身につけて学級がたくさんあります。

例1 プリントに名前を書き終わったら、教師の指示を待たずに、できるところから書き込みを始めている

例2 習っていない漢字も使ってよいことになっている

例3 授業を参観している私にも、「聴いて下さい」と説明をし始める子がいる

例4 先生が話している時に、声を出す子がいると、「まだだよ」と小さい声で言うことになっている

例5 用語をPCで調べる際、よく分からない説明のページは飛ばして、納得できる説明を探している。

生成AIを使う子も増えていますが、文科省から出ているガイドラインに沿って、利活用にふさわしくないことを、私たちが点検する必要があります。



「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」より

(文部科学省初等中等教育局、令和6年12月26日)

【不適切と考えられる例】

- 情報モラルを含む情報活用能力が十分育成されていない段階で自由に使用する
- 各種コンクールの作品やレポート・小論文等について、生成 AI による生成物をほぼそのまま自己の成果物として応募・提出
- 詩や俳句の創作、音楽・美術等の表現・鑑賞など、感性や独創性を発揮させた場面、初発の感想を求める場面等で安易に使わせる
- 教科書等の質の担保された教材を用いる前に安易に利用する
- コメント・評価すべき場面で、教師の代わりに生成 AI の出力に頼る
- 定期考査や小テスト等で使わせる
- 児童生徒の学習評価を、教師が判断せずに生成 AI からの出力をもって行う
- 人間的な触れ合いの中で行うべき教育指導を実施せずに、生成 AI のみに相談させる

情報が人格形成に関わる恐ろしさ

現代の子供たちの周りには、**デジタルコンテンツ**があふれています。私たち大人が知らないようなモノを、知らないところで、子供たちが見ていることが増えていると、容易に想像できてしまいます。

SNS で見かける**一部の動画**には、昆虫や生き物を捕まえて食べる映像や、生きている姿のまま調理する映像があるそうです。その多くは視聴者の関心を引きつけるためだけの「エンターテインメント」として作られていると聞きます。画面の中で手際よく演出される映像は、子供たちに「**面白さ**」として**強いインパクト**を与えます。

先日、次のような話を聞く機会がありました。ある子が「バッタが歩いているところを見たことがない」と友達に話したそうです。友達は、その依頼に応えるつもりで、バッタをとってきて、後ろ足を取りました。そして、お椀のような容器に土を入れ、そこに取った後ろ足を刺して「バッタケーキの出来上がり」と遊んだのです。

この行動の根底にあったのは、決して根深い残酷さではないと信じています。「動画で見た世界への**興味本位**」だったのでしょう。しかし、画面越しに「**見る**」ことと、目の前で生きている命に手を触れて「**関わる**」ことの間には、決して超えてはならない決定的な違いがあるはずです。

我々大人は、よりいっそう子供たちがどんなモノを見ているのかに**関心**を持たなくてはなりません。どんな情報が子供の人格形成に**悪影響**を与えるか、真剣に考えなくてはなりません。